

大石喜美恵大阪府本部会長の開会挨拶



(592号付録)

京都版 第449号
2023年10月15日
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
京都府本部

〒604-8832 京都市中京区
壬生下溝町51-41
TEL: 075-312-8787
FAX: 075-325-3863
E-mail
Info@kokubai-kyoto.com
ホームページ
https://kokubai-kyoto.com

『2023年近畿ブロック会議』
9月25日〜26日に参加して

府本部副会長 佐藤和夫

1. 最終日の午後、近畿ブロック・フィールドワーク企画として、「コリアタウンを歩く」に参加しました。JR環状線桃谷駅の駅前で現地ガイドをして下さる飯田光徳さん(日本コリアタウン協会大阪理事長)と合流し、大阪市生野区のコリアタウンを案内して頂きました。

桃谷駅前商店街のアーケードを東に抜ける「疎開道路」という名称の狭い通路にあたり

ます。

戦時中に空襲による延焼を防ぐため強制的に建物疎開させられた道路です。鶴橋駅周辺も戦時中に建物疎開で空き地となりました。戦後、「闇市」となり鶴橋国際マーケットへと発展しました。しかし、店舗の間口は狭く独特の賑わいを作っています。

戦前、植民地としての朝鮮半島や济州島から生活の場を求め多くの人々が、やって来しました。今では、朝鮮市場と呼ばれていた御幸道商店街は、「生野コリアタウン」と呼ばれ、「韓流ドラマ」ブームもあり、年間200万人が訪れる一大観光地になっています。

その一方では、戦争責任や植民地責任を取ろうとしない「歴史修正主義者」は、「嫌韓」世論づくりを続けています。

国賠同盟の運動の前進は、今

日の「東アジアの平和な未来」つくる運動と地続きだと実感したフィールドワークでした。

2. 近畿ブロック会議のメインテーマ「2万人同盟建設をどう作るか」の提起をうけて、数田均男事務局長は、早期の会員目標達成と国賠請願署名1万筆・団体署名150筆を掲げました。特に年末までに個人署名の半数を目ざすと報告しました。遅れている犠牲者名簿づくりでは、「京都治安維持法研究会」を16回開催し、京都関連の名簿抽出は、現在、817名に到達して2025年7月に完成を目指すと決意を述べました。

また、私、佐藤和夫は、分散会で、「若い人々との出会い」を作るためにも「治安維持法10

0周年」事業の企画を進めてい
ると報告しました。

特に、「京都学連事件100
年」事業として、「大阪外語『社
研』研究会」(成瀬龍夫代表)・

「京大学生運動研究会」(山本
正志代表)・「京都の民主運動史
を語る会」(井口和起代表)・「国
賠同盟京都府本部」の4者協議
をすすめ、それぞれの団体でま
ずは、プレ企画に取り組んでい
ると報告しました。

「横浜事件」における 和田喜太郎の位相

はじめに

和田喜太郎(京都府中郡新山
村字荒山2239番地出身)、
1916年(大正5年)12月
4日生まれ、中央公論社編集部
員の折に、治安維持法違反で1
943年10月の27歳の時

に検挙され、翌44年8月21
日に公判に付され懲役2年の
判決が下った。上告したが、保
釈を許されず棄却され下獄し
た。1945年2月7日、28
歳の若さで獄死した。

小野康人の妻・貞と和田喜太郎
の妹・気賀すみ子の共著

『横浜事件・妻と妹の手記』
より

和田喜太郎の検挙後、妹のす
み子さんは、横浜警察署に面会
に行ったが、面会を許されず、
連行された時の洋服と下着類
と靴などを下げ渡された。

女子医薬専門学校の寮に持
ち帰り洗濯しようと衣類を取
り出したところ、血の付いた下
着があった。

兄は、ひどい拷問を受けたに違
いないと哀れんでならなかつ

た。

1945年(昭和20年)2
月7日の早朝、横浜の笹下刑務
所から「キタロウシス」という
電報が来た。薄暗くガラんとし
た部屋のタタキに一糸まとわ
ずにパンツもはぎ取られた兄
の死体だった。遺体は、全身ど
す黒く異様に膨らみ、目はみひ
らいたまま中空を睨んでいた。

虚構の罪を負わされ、拷問で
責められ、死してなおイヌやネ
コにも劣る扱いを受けた兄、言
いようのない屈辱と怒りと無
念の思いで胸が張り裂けんば
かりだったと、横浜事件の再審
請求人の思いを手記に残した。

「横浜事件」とは

細川嘉六の主宰する「泊会議」
を日本共産党再建会に見立て1
1の事件を統括した権力犯罪
―戦争末期の言論弾圧を目的に

した事件―

治安維持法事件としては、戦
時中の最終版の弾圧事件とい
えよう。

中央公論社や改造社などの
大手出版社に「自主的廃業」を
強いる事実上の解散命令を出
したジャーナリズムに対する
言論弾圧事件です。

戦後、再審請求裁判運動が、
1985年の「秘密保護法反対
運動」の中から「治安維持法の
戦後版をゆるすな」の声ととも
に、治安維持法の弾圧うけた当
事者を中心にはじまりました。

しかし、再審運動の前に、厚
い壁が立ちふさがりました。
第一の壁は、敗戦処理のおり
に「一件記録の焼却」を理由に
訴えを棄却。

第二の壁は、ポツダム宣言受
諾により、弾圧法規の失効でお

情けの「免訴」。

将来に向かって刑を言い渡さないという名目で、損害賠償の責任回避。

第三の壁は、「無罪」との証拠がない、フレームアップを問うのはあくまでも推測にすぎない。ああだ、こうだと行政のかばいあい。

横浜事件の拷問した特高警察官告訴事件判決と四次にわたる再審請求裁判及び刑事補償裁判の到達点から、「横浜事件」総体を逆照射すると

しかし、第四次再審請求の大島判決で「刑事補償法25条は、免訴判決確定後、刑の廃止及び大赦の免訴事由が、なかったならば無罪の裁判を受けるべきものと認められるかという点を判断することとなり、適法的な請

求があれば実態的な判断を示す

という趣旨の判決をだした。そして、第四次請求の免訴判決から11か月後(2010年2月4日)に大島補償決定がくだされた。

小野康人の1945年7月20日付「予審終結決定」にはあったが、同年9月15日付「確定判決」では認定されなかった「泊会議」(共産党再建会議なるもの)について、「横浜事件を象徴する支柱ともいべき事実」であり、「泊会議の事実の存否は当然の有罪とされた行為における主観的要件の有無に関連してくることになるので、改めて検討する必要がある」とし、「細川らが泊で宿泊し、遊興したこと以外に、共産党再建準備会を開催し、その後の活動方針を決定したという事実を認定するに足る証拠は存在しない」と犯罪事実を否定

した。

しかも、小野の犯罪事実とした細川論文の掲載について、7月5日の泊会議の決定に基づいて細川論文を『改造』に掲載する方針がとられたという公訴事実は、泊会議の会合と改造社内における細川論文の掲載決定の時間的な先後が逆である可能性が高い

とし、結社の目的遂行行為であるという大きな根拠は認められないと断じた。(同様に、和田の判決文の公訴事実の一つとして、中央公論編集部に在籍中に共産主義者の小池基之、橘しらき、除村吉太郎に執筆させることを畑中繁雄編集長に提起し執筆依頼したとされたが、中央公論の毎月の目次には三人の名の論文はない。論理的構造としては、公訴事実がないことになりました。要するに、「改造」と「中央公論」を廃刊に追い込むために、和田

喜太郎も権力によるフレームアップ事件の生贄として獄死させられたといえるのではないか。妹の気賀すみ子さんの怒りを共有することが国賠運動のバネとなります。

「横浜事件」の中の「政治経済研究会」(昭和塾)事件の特異点と中央公論の二人の獄死者

総体としての「横浜事件」そのものを、日本共産党再建準備会に統括するという見立てには「犯罪事実がない」が、共産党再建を目指す主体的な取り組みはなかったが総力戦の継戦能力の破綻を科学的分析で予測したという「犯罪事実あり」と自任するのが「政治経済研究会事件」です。再審請求の理由がかわっていましたが。とくに、浅石は細川嘉六の「昭和塾」塾生であり、細川との

つながり濃い人です。和田と共に「中央公論」弾圧のために「拷問による自白」を先行的に取られたことは想像に難くないでしょう。その結果がふたりの獄死です。

いずれにしても、横浜事件は平沼騏一郎(検事総長・首相・貴族院議長など歴任の内務官僚の大御所の存在)につながる唐沢俊樹(内務次官)が神奈川県知事や特高課長を動かした近衛勢力打倒(ゾルゲ・尾崎事件の再版)の権力争いとの説もあり、敗戦必至の中で国体護持勢力の和平工作派か本土決戦派かの国内「思想戦」・政敵つぶしの材料・生贄にされたといえるのではないのでしょうか。第四次にわたる再審請求運動の司法分野での突破口をテコに、政治的に包囲する国賠運動のはたす役割が大切です。

【参考資料】

◎ドキュメント「横浜事件」

◎「横浜事件」・再審裁判とは何だったのか

近畿ブロック会議に参加して

―西谷文和氏の講演を聞く―

【維新躍進の謎に迫る

「維新政治の正体とは」

府本部理事 谷口公洋



西谷文和氏の講演

ジャーナリスト・西谷文和氏の話は、腑に落ちました。

橋下徹元代表以来の維新の横暴と無策で、全国の都道府県で最も多くのコロナ禍の犠牲者を出しながら、なぜ、大阪の有権者は支持して自らの首を絞めるのかわかりませんでした。大阪独特の特別な理由があるのだろうかと思像していました。

しかし、この4月、私の住む城陽市会議員選挙では、定数20で維新の女性新人候補がトップ当選しました。京都府内でも同様に維新の候補者が、高い得票で当選し大きな影響を及ぼす様になっています。

維新の馬場代表は、自らを「第二自民党」と称し、「共産党は存在しなくてよい」などと国会議員の資質を疑う発言をしています。

こんな人物が代表で、汚職と暴言・暴力事件を続出させる政党が、なぜ、有権者の支持を得るのか、わたくしも多くの学習会に参加しているのにどうもわかりません。

現場でウオッチャーの西谷講演にわくわく期待して拝聴！

西谷さんは、吉村知事や松井元市長の知られていない育ちのヤンチャぶりや個人的なエピソードも交えながら、行動や政治の実態とともに、「ワイルドなというか、悪ガキぶりに、剛腕の変革者」を錯覚させて、堺屋太一仕込みの「大阪都構想」とか「関西万博」とか「大阪力ジノ」とかのアドバルーンで市民を「幻惑」してきました。さて、その実態は？

(次号に続く)